

平成 26 年度東金青年の家主催事業 子どもキャンプ② <7月5~6日>

キャンプの技術は、災害時も応用ができます。「子どもキャンプ」第2回目では、災害時を想定し、いざという時に役立つ技術を学びました。災害時にキーワードとなる「食」・「水」・「火」に関して、様々な『生活に役立つ技術』を学びました。

キャンプで学んだみんななら、災害時にもきっと、自分だけでなく、自分の周りの人たちも守ることができるはずです！



災害時に必要な事とは？
阪神大震災を事例に、
災害について座学研修を行いました。



いざという時には、正しく情報を伝えることが重要です。
仲間に正しく情報を伝えて名画を再現するゲームで、



今回は、待ちに待った屋外での
テント泊ができました。
テントの設営も、
もう手慣れたものです。



飯ごうの代わりに空き缶を使ってご飯を炊いたり、牛乳パックを利用してホットドックを作りました。
少し工夫をすれば、身の回りにあるもので意外に簡単に食事が作れます。
災害時にも使える「生活に役立つ知恵」を学びました。



災害時には、水道が止まってしまうこともあります。砂利や炭を使って、泥水をろ過する方法を学びました。



もしも、マッチやライターが無かったら!? 限られた道具を使っての火起こしに挑戦しました。摩擦法や、太陽光を利用する方法など、火を起こす色々な方法を考えました。



ナベやフライパンだけじゃなく、カマドが無くても料理は作れます! ワイルド穴掘り調理で、チキンの蒸し焼きに挑戦しました!